

## 第 二 編

### 高等学校定時制課程卒業生の進路状況調査

## 第 二 編

### 高等学校定時制課程卒業生の進路状況調査

#### — 目 次 —

1. は じ め に .....	37
2. 調 査 の 概 要 .....	38
3. 卒業生の進路概況 .....	43
4. 被傭者の産業別分布状況 .....	54
5. 被傭者の地域別分布状況 .....	54
6. 被傭者の勤務状況 .....	58
7. 自営者の産業別分布状況 .....	60
8. 無業者の生活状況 .....	60
9. 卒業生の進路状況からみた学校の性格 .....	61
10. 結 び .....	66

## 1. は じ め に

われわれは、昭和 28 年度以来、新潟県産業教育計画策定のための基礎研究の一環として、高等学校卒業生の就業状況に関する調査を行ってきた。卒業生の調査を行ったのは、つぎのような見地に立ったからであった。

「産業教育とは、社会の要請に適合した資質を具えた人材を、必要とする数だけ教育機関が養成し、社会に送り出してやるための教育である。この場合、社会の要請を量質ともに適確に把握することが産業教育計画策定の基礎とならなければならない。しかし、自由主義経済体制下にあっては、人材の質の問題はともかく、人材の量の問題は適確に把握することは至難である。しかし、至難ではあるが不可能ではない。最近の卒業生の就業状況は単的に社会の要請を示すものではあるまいか。卒業生を調査することによって、間接的ではあるが、教育に対する社会の要請を明らかにすることができるであろう。」（注1）

そして、高等学校の通常課程卒業生について就業状況の調査を行い、その結果を昭和 30 年 3 月研究紀要第 10 集「学校と職場の結びつき」としてまとめ、公表した。そのさいは、主として手数の関係で、定時制課程に及ぶことができなかったのであるが、その後余裕を得て、昭和 30 年 11 月定時制課程卒業生について同様の調査を実施した。本稿はその結果の報告である。したがって、研究紀要第 10 集のとくに第 2 部高等学校（通常課程）卒業生就等分布調査報告とあわせて、一先づ高等学校卒業生の調査報告は完結したと言ってよい。本稿は単独に読まれてもじゅうぶんに意は通ずるけれども、紀要第 10 集と併読されるならば一段と明瞭となるであろう。

---

（注1）新潟県教育研究所報第 6 号（昭和 29 年）P.P. 2～15. 参照

〃 第 7 号（昭和 30 年）P.P. 2～18.

## 2. 調査の概要

調査はどのように行われたか。つぎに各学校に配布した調査実施要領から抜粋して調査の内容と方法を述べる。

① 調査目的 産業教育振興法にもとづく本県産業教育振興計画作成の資料をうる。

② 調査対象 昭和30年3月新潟県公立高等学校定時制課程卒業生全員

ただし、巻高校、巻農業高校、柏崎常盤高校（以上3校は本年度当研究所研究協力校のため）および西越高校（昭和28年度通常課程卒業生就業分布調査の対象とならなかったため）の四校は通常課程卒業生についてもあわせ調査する。

③ 調査内容

イ 卒業生の進路別数（調査票A）

ロ 卒業生中被傭者の個人別就業状況（調査票B）

ハ 卒業生中自営者の個人別就業状況ならびに無業者の生活状況（調査票C）調査票(A)は中心校分校ごとに、調査票(B)(C)は小課程ごと、昼夜間ごと、男女ごとに作成する。

④ 調査方法

調査票(B)(C)は卒業時の学級担任者引続き在任の場合は各担任者の責任において、昭和30年11月1現在の卒業生の状況について記入のこと。担任者転退職の場合は別途方法を考慮記入する。

これを中心校各分校ごとに学校長とりまとめ調査票(A)を作成する。

調査票の様式はつぎの通りである。

### 集計用

### 高等学校卒業生進路状況調査票 (A)

設置者別	学 校 名	中 心 校 別	通 常 定 時 制 別	調 査 者 職 氏 名 印
県 立 市 町 村 立 私 立	高等学校	中 心 校 ※ 分 校	通 常 定 時 制	印

※分校は分校名記入のこと。



小課程別	昼夜別	進路別		進学	白営	被傭	無業	死亡	不詳	合計
		男	女別							
普 通	昼	男女	男女							
	夜	男女	男女							
農 業	昼	男女	男女							
	夜	男女	男女							
被 服	昼	男女	男女							
	夜	男女	男女							
合 計	昼	男女	男女							
	夜	男女	男女							

(注)

1. 進学とは大学学部，短大，旧大予科，短大別科，高校専攻科へ入学した者をいう。
2. 自営とは家業（継続的に生計の資を自己の営業によって得ているもの）に従事している者をいう。農家二三男で将来分家を予定される者はこれに含まれるが一時的な家事手伝いは無業とする。
3. 被傭とは直接，間接に賃金，給料，利益，報酬その他何らかの収入を目的とする自家業以外の仕事についてた者をいう。  
臨時的な仕事（いわゆるアルバイト）は含まれない。
4. 無業とは上記以外の者たとえば，自宅で進学準備中の者，家事手伝中の者，教養向上のため各種教養施設へ入学中の者，病氣療養中の者などをいう。  
ただし，各種教養施設入学者のうち採用試験に合格し，研修機関（例えば，税務講習所，看護婦養成所等）で研修中の者は被傭として取扱う。

### 被傭者用

### 高等学校卒業生進路状況調査票 (B)

〔記入上の注意〕

1. 調査票(A)で被傭者とされる者について，通常定時制，小課程別，昼夜間別，男女別に各個人について，昭和30年11月1日現在の状況を記入すること。
2. (1)～(5)はそれぞれ空らんをうずめ，または該当するものを○でかこむこと。
3. (6)～(10)は記入例にならって記入のこと。ただし，(8)は通常課程は記入の必要がない。
4. (8)，(9.2)および(10)の産業種別は別表の産業分類表を参照し，中分類の数字を記入のこと。判定困難な場合は該当らんに具体的に仕事の内容を記入すること。なお(9.3)所属部課は詳細不明の場合はそのままよい。

調査者職氏名印

(印)

(1) 学 校 名	(2) 通 常 定 時 制 別	(3) 卒 業 課 程 別	(4) 昼 夜 別	(5) 男 女 別		
高等学校 中心校 分校	通 常 定 時 制	普通 農業 商業 機械 工化 電氣 紡織 水製 被服 保育	昼・夜	男・女		
(6) 通 番	(7) 卒業生氏名	(8) 高校在学中 に従事していた職業 (産業種別)	(9) 現 在 の 職 業	(10) 自 家 の 職 業 (産業種別)	(11) 備 考	
		(9.1) 勤務先名称	(9.2) 産業種別	(9.3) 所属部課	(9.4) 勤務先所在地	(9.5) 通勤状況 自宅通勤 下宿 その他
(例)	甲野 太郎	1 東北電力 新潟支店	32 工務課	新潟市 上大川前五	○	1

自営者  
無業者用

### 高等学校卒業生進路状況調査票 (C)

〔記入上の注意〕

- 調査票(A)で自営、無業、死亡、不詳とされる者について、通常定時制別、小課程別、昼夜間別、男女別に各個人について、昭和 30 年 11 月 1 日現在の状況を記入すること。
- (1)～(5)はそれぞれ空らんをうづめ、または該当するものを○でかこむこと。
- (6)～(11)は記入例にならつて記入のこと。ただし、自営者は(11)のらん、無業者は(10)のらん、死亡、不詳者は(10)(11)のらんは記入する必要がない。
- (9)の産業種別は別表の産業分類表を参照し、中分類の数字を記入のこと。  
判定困難な場合は該当らんに具体的に仕事の内容を記入すること。

調査者職氏名印

印

(1) 学 校 名	(2) 通 常 定 時 制 別	(3) 卒 業 課 程 別	(4) 昼 夜 別	(5) 男 女 別		
高等学校 中心校 分校	通 常 定 時 制	普通 農業 商業 機械 工化 電氣 紡織 水製 被服 保育	昼・夜	男・女		
(6) 通 番	(7) 卒業生氏名	(8) 自 営 ・ 無 業 死 亡 ・ 不 詳 別	(9) 自 営 者 の 相 続 (産業種別)	(10) 自 営 者 の 相 続 (産業種別)	(11) 無 業 者 の 生 活 概 況	(12) 備 考
		自 営 無 死 不 営 業 亡 詳	自 営 者 の 相 続 (産業種別)	自 営 者 の 相 続 (産業種別)	自 営 者 の 相 続 (産業種別)	自 営 者 の 相 続 (産業種別)
(例)	乙野 花子	○	1		○	

產 業 分 類 表

- 41 -



なお詳細は文部省「学校の行く就職指導」日本職業指導協会昭和26年発行 P. P. 200～290 を参照されたい。

- ⑤ 調査期日 昭和30年11月1日(火)
- ⑥ 調査票返送方法 記入済みの調査票は通常定時制ごと、中心校各分校ごとに(B)(C)をわけて整理し、その上に(A)を重ねて郵送する。
- ⑦ 調査票返送期限 昭和30年11月30日(水)
- ⑧ 調査票返送先 新潟市上所島 新潟県教育研究所
- ⑨ 調査依頼文

新教研第91号 昭和30年10月22日

新潟県教育研究所長

高等学校 校長

#### 定時制課程卒業生進路状況調査についての依頼

かねて御承知の通り、当研究所では、産業教育振興法にもとづく本県産業教育振興計画作成の一部を担当して、本県高等学校立地計画の作成に努力しておりますが、このたび、定時制課定卒業生の進路状況の実態を適確に把握することが必要となってまいりました。

つきましては、貴校昭和30年3月卒業生の進路状況について左記要領により御調査の上別紙調査票により御回答くださるよう御依頼いたします。

以上のように、本県の公立私立高等学校定時制課程を昭和30年3月卒業した者全員を対象として、卒業後約7カ月経った同年11月1日現在で、その就業状況をおさえ、学校より調査票(A)、(B)、(C)、により回答を求めたのである。この方法は昭和28年に通常課程卒業生について実施した調査と同じである。ただし通常課程の調査は26年、27年、28年各3月卒業生の3か年度にわたっており、今回の調査は30年3月1か年度だけである。また、前の調査は(C)票を欠いていたが、定時制の場合は、自営者や無業者の生活内容を知るためにこれを加えてある。このように学校へ調査を依頼するという間接的方法をとったのであるが、各学校の誠意ある協力により、期限内に100%の回収率をあげることができた。

結果の処理は、通常課程の調査の場合をにらみ合わせ、つぎのような観点を



たてて行った。

- ① 本校分校ごと、課程ごと、昼夜ごと、男女ごとにみて、卒業生の進学、被傭、自営、無業の状況はどうなっているか
  - ② 被傭者の産業別分布状況はどうなっているか。
  - ③ 被傭者の地域別分布状況はどうなっているか。
  - ④ 被傭者の卒業後の職業移動の状況、通勤の状況はどうなっているか。
  - ⑤ 自営者の産業別分布状況はどうなっているか。
  - ⑥ 無業者の生活状況はどうなっているか。
  - ⑦ 卒業生の進路状況からみて各学校はどんな性格をもっているか。
- 以下、順次、結果の要点について述べよう。

### 3. 卒業生の進路概況

調査票(A)を課程ごと、学校ごと、男女ごとに集計したものがつぎの第1表である。これは、それ以下の叙述の基礎となるので煩をいわず、全部掲げることとした。また、学校の所在地と本校分校の関係を端的にとらえるために、昭和29年度の本県高等学校定時制課程配置の状況を地図の上に描いて、第1図として示した。これらの図表を参照されて、各学校(分校ごと)は、自分の学校が、他の学校にくらべて、どんな特色をもっているかをお考えいただきたいと思う。

第1表

## 定時制卒業生進路状況

〔普通課程1〕

(注) 昼夜別のうちdは昼間, nは夜間を示す。

学校別	男女別 進路別	男					女					合 計					備 考		
		進学	自営	被傭	無業	不詳	進学	自営	被傭	無業	不詳	進学	自営	被傭	無業	不詳			
西新発田	d	-	-	-	-	-	1	-	2	1	-	4	1	-	2	1	-	4	
	n	-	-	-	-	-	-	1	1	6	2	-	10	1	1	6	2	-	10
新発田	n	-	11	18	1	-	30	-	-	-	-	-	-	11	18	1	-	30	
商工	d	-	1	5	11	-	17	-	2	1	-	3	-	1	7	12	-	20	
葛塚	n	-	3	10	4	-	17	-	1	-	-	1	-	3	11	4	-	18	
中 浦	d	1	6	4	-	-	11	-	-	1	-	1	1	6	4	1	-	12	
川 東	d	3	7	5	1	-	16	-	1	2	7	-	10	3	8	7	8	-	26
中 条	n	1	6	10	4	-	21	-	2	-	-	2	1	6	12	4	-	23	
金 塚	d	-	8	7	2	-	17	-	-	-	-	-	-	8	7	2	-	17	
水 原	d	-	10	8	-	-	18	-	2	-	-	2	-	12	8	-	-	20	
	n	-	16	14	-	-	30	1	2	1	-	4	1	18	15	-	-	34	
安 田	d	1	4	11	1	-	17	-	1	2	-	3	1	4	12	3	-	20	
笠 岡	d	-	6	-	1	-	7	-	-	2	-	2	-	6	-	3	-	9	
本 田	d	-	2	1	2	-	5	-	3	1	-	4	-	2	4	3	-	9	
長 浦	d	1	7	4	4	-	16	-	1	3	-	4	1	7	5	7	-	20	
村 上	d	2	19	11	2	-	34	2	4	3	5	-	14	4	23	14	7	-	48
	n	2	3	11	1	-	17	1	-	6	1	-	8	3	3	17	2	-	25
太川谷	d	2	3	2	1	-	8	-	1	2	1	-	4	2	4	4	2	-	12
高 根	d	1	8	6	2	-	17	-	2	2	-	4	1	8	8	4	-	21	
保 内	d	-	2	3	6	-	11	-	1	1	-	2	-	3	4	6	-	13	
関 谷	d	-	14	7	3	-	24	-	2	8	-	10	-	14	9	11	-	34	
岩 船	d	-	5	4	1	-	10	-	1	1	1	-	3	-	6	5	2	-	13
下越計	%	14	141	141	47	-	343	6	13	38	38	-	95	20	154	179	85	-	438
		4.0	41	41	13	-	100	6.3	13	40	40	-	100	4.6	35	40	19	-	100
		.1	.1	.6			.0						.0	.2	.9	.4			.0
新潟中央	n	-	-	-	-	-	3	-	34	15	-	52	3	-	34	15	-	52	
曾野木	n	-	4	5	3	-	12	-	3	2	-	5	-	7	7	3	-	17	
三 条	n	2	13	29	4	-	48	-	1	12	-	13	2	14	41	4	-	61	
燕(三笑)	n	-	6	11	1	-	18	-	1	6	2	9	-	7	17	3	-	27	
村 松	d	1	11	7	3	10	32	-	-	-	-	-	1	11	7	3	10	32	
	n	1	6	7	-	-	14	-	5	7	2	-	14	1	11	14	2	-	28
新 津	n	-	23	24	1	-	48	-	7	1	-	8	-	23	31	2	-	56	
亀 田	n	-	12	12	7	4	35	-	5	1	-	6	-	12	17	8	4	41	
白 根	n	-	8	16	7	-	31	-	9	2	-	11	-	8	25	9	-	42	
小須戸	n	-	16	18	-	-	34	-	-	2	-	2	-	16	18	2	-	36	

第1表

定時制卒業生進路状況

〔普通課程2〕

進路別	男女別	男					女					合 計					備 考			
		進学	自営	被傭	無業	不詳	進学	自営	被傭	無業	不詳	進学	自営	被傭	無業	不詳				
新 関	n	-	8	5	-	-	13	-	-	-	2	-	8	5	2	-	15	吉田分校 は27.4 設 置		
白 井	n	2	6	12	8	-	28	-	-	-	-	2	6	12	8	-	28			
両 川	n	2	8	10	9	-	29	-	-	1	6	7	2	8	11	15	36			
菴 農	d	2	3	2	2	-	9	-	-	-	2	2	2	3	2	4	11			
	n	2	2	10	-	-	14	1	-	3	-	4	3	2	13	-	18			
内 野	n	1	1	10	-	-	12	-	2	1	-	3	1	3	11	-	15	豊実, 西川, 東川, 楊川, 川各分校 は27.4 設 置		
黒 崎	n	4	5	16	11	5	41	-	-	1	1	2	4	5	17	12	5		43	
曾 郷	n	1	5	8	-	-	14	-	-	-	-	-	1	5	8	-	14			
津 川	n	-	5	13	4	3	25	-	-	-	-	-	5	13	4	3	25			
加茂農林	n	-	10	21	3	-	34	-	-	9	4	13	-	10	30	7	47			
見 附	n	-	10	16	-	-	26	-	-	6	-	6	-	10	22	-	32	今町分校 は蒲原地 区へ記載		
新 瀧	n	2	8	10	-	-	20	-	1	-	1	2	2	9	10	1	22			
石 山	n	-	4	2	-	-	6	-	-	2	-	2	-	4	4	-	8			
(第二長岡) 今 町	n	2	13	12	3	1	31	1	-	2	4	7	3	13	14	7	1		38	
市立沼垂	n	-	14	130	3	-	147	-	1	14	7	22	-	15	144	10	-		169	
大 形	n	1	3	13	-	-	17	-	-	1	1	2	1	3	14	1	-	19		
市立工業	n	-	-	24	1	-	25	-	1	6	1	8	-	1	30	2	-	33		
私立明訓	n	4	14	28	5	1	52	-	-	-	-	-	4	14	28	5	1	52		
私立白山	d	-	-	3	5	-	8	-	1	-	5	6	-	1	3	10	-	14		
私 立	n	5	6	96	3	-	110	-	-	3	-	3	5	6	99	3	-	113		
加茂睦星	n	9	18	20	13	-	60	-	-	-	-	-	9	18	20	13	-	60		
蒲原計			41	242	290	96	24	993	5	16	131	59	211	46	258	721	155	24	1,204	
	%	4.2	24.4	29.7	9.7	2.4	100.0	2.4	7.5	62.1	28.0	100.0	3.8	21.4	59.9	12.9	2.0	100.0		
長 岡	n	5	-	54	-	6	65	-	-	-	-	-	5	-	54	-	6	65	今町分校 は蒲原地 区へ記載	
関 原	d	4	3	8	8	-	23	-	-	1	-	1	4	3	9	8	-	24		
越 路	n	1	3	7	-	-	11	-	-	-	-	-	1	3	7	-	11			
第二長岡	n	-	-	-	-	-	-	2	1	17	4	2	26	2	1	17	4	2		26
柏 崎	n	1	1	23	3	-	28	1	-	12	2	15	2	1	35	5	-	43		
与 板	n	-	7	7	2	-	16	-	-	-	-	-	-	7	7	2	-	16		
脇野町	n	-	11	1	2	-	14	-	-	-	-	-	-	11	1	2	-	14		
寺 泊	d	-	1	5	-	-	6	-	-	4	3	7	-	1	9	3	-	13		
栃 尾	n	1	3	10	-	-	14	-	1	7	1	9	1	4	17	1	-	23		
上塩谷	d	-	6	2	4	-	12	1	-	-	-	-	1	1	6	2	4	13		
西 谷	d	-	3	1	1	-	5	-	-	-	6	1	7	-	3	1	7	1	12	

第1表

## 定時制卒業生進路状況

〔普通課程3〕

学校別	男女別 進路別	男					女					合 計					備 考		
		進学	自営	被傭	無業	不詳	進学	自営	被傭	無業	不詳	進学	自営	被傭	無業	不詳			
上北谷	d	-	4	3	2	-	9	-	2	-	-	2	-	4	5	2	-	11	
西 越	d	-	9	6	-	-	15	-	-	3	-	3	-	9	6	3	-	18	
私立明星	n	-	1	11	-	-	12	-	-	-	-	-	-	1	11	-	-	12	
中越計	%	12.5	52.2	138.6	22.0	62.6	230.0	4.5	2.8	43.6	19.8	3.7	16.5	54.7	181.6	41.3	93.0	301.0	
小千谷	n	1	6	18	4	-	29	-	3	2	-	5	1	6	21	6	-	34	吉谷分校 は29.4 設 置
片貝	n	-	3	4	1	-	8	-	1	6	-	7	-	4	10	1	-	15	
六日町	n	3	7	15	7	-	32	-	1	1	3	5	3	8	16	10	-	37	塩沢分校 は27.4 設 置
湯沢	d	2	7	8	3	-	20	-	1	-	-	1	2	7	9	3	-	21	
城内	d	-	1	3	-	-	4	-	1	2	-	3	-	2	5	-	-	7	
大巻	d	-	7	4	1	-	12	-	-	-	-	-	-	7	4	1	-	12	
浦佐	d	-	2	16	1	1	20	-	1	-	-	1	-	2	17	1	1	21	
十日町	n	-	11	19	3	-	33	-	3	11	1	15	-	14	30	4	-	48	
中条	n	-	6	8	1	-	15	-	2	3	-	5	-	6	10	4	-	20	
千手	n	-	9	7	-	-	16	-	3	3	-	6	-	9	10	3	-	22	
仙田	d	-	9	4	-	-	13	-	-	-	-	-	-	9	4	-	-	13	
田沢	n	-	1	4	1	-	6	-	1	-	1	2	-	2	4	2	-	8	
津南	d	2	10	8	6	-	26	-	11	4	-	15	2	10	19	10	-	41	
組合立	n	-	5	4	5	-	14	-	-	-	-	-	-	5	4	5	-	14	
組小	d	2	9	7	2	-	20	-	3	-	-	3	2	9	10	2	-	23	
	n	1	6	9	3	-	19	-	2	1	3	6	1	8	10	6	-	25	
魚沼計	%	11.3	99.4	138.1	38.2	128.0	287.0	-	9.2	45.8	20.0	-	74.0	110.9	108.7	183.1	58.0	1361.0	
高田北城	n	1	8	29	-	-	38	-	1	7	-	8	1	9	36	-	-	46	
直江津	n	-	4	27	3	-	34	-	4	-	-	4	-	4	31	3	-	38	新井高校 矢代、原 通の各分 校は27.4 設 置
吉川	d	-	2	2	1	-	5	-	-	-	-	-	2	2	1	-	5		
高井 (新井)	n	-	6	10	-	-	16	-	2	-	-	2	-	6	12	-	-	18	
糸魚川	n	-	1	12	8	-	21	-	2	5	-	7	-	1	14	13	-	28	根知分校 は28.4 設 置
青海	n	-	1	31	1	-	33	-	9	-	-	9	-	1	40	1	-	42	
西海	n	-	-	1	2	-	3	-	3	1	-	4	-	-	4	3	-	7	
早川	n	-	4	3	-	-	7	-	2	1	-	3	-	6	4	-	-	10	名立村分 校は28.4 設 置
能生水産	n	-	3	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	4	
能生谷	d	-	2	2	4	-	8	-	1	3	-	4	-	3	5	4	-	12	

吉谷分校  
は29.4  
設置  
臨沢分校  
は27.4  
設置

新井高校  
欠代、原  
通の各分  
校は27.4  
設置

根知分校  
は28.4  
設置

名立村分  
校は28.4  
設置



第1表

## 定時制卒業生進路状況

〔普通課程 4〕

学校別	男女別 進路別	男					女					合 計					備 考			
		進学	自営	被傭	無業	不詳	計	進学	自営	被傭	無業	不詳	計	進学	自営	被傭		無業	不詳	計
名 立 松 代	n	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	4	-	-	2	2	-	4		
	d	5	8	9	5	27	4	1	6	3	-	14	9	9	15	8	-	41		
	n	-	8	3	1	12	-	-	2	-	-	2	-	8	5	1	-	14		
村立有恒	d	-	-	6	-	6	-	-	11	7	-	18	-	-	17	7	-	24		
町立柿崎	d	-	7	8	-	16	-	1	-	-	-	1	-	8	8	-	1	17		
	n	-	4	9	-	13	-	-	3	-	-	3	-	4	12	-	-	16		
上越計		6	58	152	26	1243	4	6	55	18	-	83	10	64	207	44	1326			
	%	2.5	23.9	62.6	10.6	0.4	100.0	4.8	7.2	66.3	21.7	-	100.0	3.1	19.6	63.5	13.5	0.3	100.0	
佐 渡 真 野 沢 根 赤 沼 小 木 金 沢 両 津 相 川	d	-	1	6	7	2	16	-	3	10	-	13	-	1	9	17	2	29		
	d	-	-	4	2	-	6	-	3	4	-	7	-	-	7	6	-	13		
	n	-	-	4	1	-	5	-	1	2	-	3	-	-	5	3	-	8		
	d	3	-	3	3	-	9	-	-	-	-	-	3	-	3	3	-	9		
	n	-	8	1	2	-	11	-	1	-	-	1	-	8	2	2	-	12		
	d	-	5	-	2	-	7	-	4	-	-	4	-	9	-	2	-	11		
	n	1	1	1	-	3	-	2	2	1	-	5	1	3	3	1	-	8		
	n	-	1	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	3		
佐渡計		4	16	21	17	2	60	-	6	10	17	-	33	4	22	31	34	2	93	
	%	6.7	26.7	35.0	28.3	3.3	100.0	-	18.2	30.3	51.5	-	100.0	4.3	13.7	33.3	36.6	2.2	100.0	
普通課程		88	608	1,180	246	342	156	19	52	322	171	3,567	107	660	1,502	417	372	723		
合 計	%	4.1	28.2	54.5	11.4	1.6	100.0	3.4	9.9	56.7	30.2	0.5	100.0	3.9	24.2	55.2	15.3	1.4	100.0	

第1表

## 定時制卒業生進路状況

〔農業課程 1〕

学校別	男女別 進路別	男					女					合 計					備 考			
		進学	自営	被傭	無業	不詳	計	進学	自営	被傭	無業	不詳	計	進学	自営	被傭		無業	不詳	計
新農	田	d	-	8	3	12	-	23	-	-	-	-	-	-	8	3	12	-	23	
	業	d	-	7	2	3	-	12	-	-	-	-	-	-	7	2	3	-	12	
	崎	d	-	10	2	1	-	13	-	-	-	-	-	-	10	2	1	-	13	
	雲	d	-	1	7	1	-	9	-	-	-	-	-	-	1	7	1	-	9	
	寺川	d	-	13	1	3	1	18	-	-	-	-	-	-	13	1	3	1	18	
水	原	d	-	39	15	20	1	75	-	-	-	-	-	-	39	15	20	1	75	
下越計		%	-	52.0	20.0	26.7	1.3	100.0	-	-	-	-	-	-	52.0	20.0	26.7	1.3	100.0	

第1表

定時制卒業生進路状況

〔農業課程2〕

男女別 学校別	進路別	男					女					合 計					備 考
		進学	自営	被傭	無業	不詳	進学	自営	被傭	無業	不詳	進学	自営	被傭	無業	不詳	
卷 農 業	d	-	3	1	2	-	6	-	-	-	-	-	3	1	2	-	6 30.3廃止
黒 埼	d	-	7	6	1	-	14	-	-	1	-	1	7	6	2	-	15
加茂農林	d	-	6	2	6	-	14	-	-	7	-	7	6	2	13	-	21 (注) 30.4分校設置
見 附	d	-	20	6	-	1	27	-	-	-	-	20	6	-	1	27	27
石 山 (新潟南)	n	1	2	-	-	-	3	-	-	2	-	1	2	-	2	-	5
五 泉 実 業	d	1	12	7	3	1	24	-	-	-	-	1	12	7	3	1	24
豊 実 (津川)	d	-	1	6	2	-	9	-	-	-	-	1	1	6	2	-	9
(西川)	d	1	3	3	-	-	7	-	-	-	-	3	3	-	-	-	7
(東川)	d	-	1	3	-	-	4	-	-	-	-	1	3	-	-	-	4
(三川)	d	-	1	2	-	-	3	-	-	-	-	1	2	-	-	-	3
(三川)	n	-	1	3	3	-	7	-	-	-	-	1	3	3	-	-	7 30.3廃止
蒲原計	%	3.5	57.48	39.3	17.1	21.6	118.0	-	-	10.0	10.0	3.5	57.44	39.5	27.1	2128.16	100.0
柏崎農業	d	-	11	2	1	-	14	-	-	-	-	-	11	2	1	-	14
二 田	d	1	1	1	-	-	3	-	-	8	-	8	1	1	1	8	11
野 田	d	2	7	8	1	-	18	-	2	1	-	3	2	7	10	2	21
高 柳	d	2	6	2	2	-	12	-	-	1	-	1	2	6	2	3	13
小 国	d	4	11	3	3	-	21	-	-	2	-	2	4	11	3	5	23
長岡農業	d	-	20	4	-	1	25	-	-	-	-	-	20	4	-	1	25
山 本	d	-	15	5	2	-	22	-	1	-	-	1	15	6	2	-	23
種子原	d	-	15	11	5	-	31	-	1	-	-	1	15	12	5	-	32
中越計	%	9.6	86.58	36.24	14.9	11.9	146.0	-	4.0	12.0	16.0	9.5	86.53	40.9	26.0	1162.06	100.0
高田農業	d	-	12	5	-	-	17	-	1	1	-	2	12	6	1	-	19
高 土	d	-	2	2	1	-	5	-	-	1	-	1	2	2	2	-	9
松之山 (安塚)	d	2	8	5	1	-	16	-	1	1	-	2	2	8	6	2	18
(牧)	d	-	7	13	5	-	25	-	4	2	-	6	7	17	7	-	31
(保倉)	d	3	6	7	-	-	16	-	2	-	-	2	3	6	9	-	18
(上美)	d	-	6	3	14	-	23	-	1	6	-	7	6	4	20	-	30
(直江津)	d	-	3	2	-	-	5	-	-	-	-	-	3	2	-	-	5 30.3廃止
新 井	d	-	5	1	2	-	8	-	-	-	-	-	5	1	2	-	8 30.3廃止
矢 代	d	-	5	1	2	-	8	-	-	-	-	-	5	1	2	-	8 30.3廃止
原 通	d	1	-	5	1	-	7	-	-	-	-	1	-	5	1	-	7 30.3廃止

第1表

## 定時制卒業生進路状況

〔農業課程〕

学校別	男女別 進路別 学年別	男					女					合 計					備 考			
		進学	自営	被傭	無業	不詳	計	進学	自営	被傭	無業	不詳	計	進学	自営	被傭		無業	不詳	計
上越計		649	40	35	19	122	100	-	-	9	11	-	20	100	649	40	35	19	122	100
		%	4.9	.1	.2	.7	.0	-	-	.45	.55	-	.10	4.9	.1	.2	.6	.7	.0	
佐渡農業		d	-	12	9	6	-	27	-	-	-	-	-	-	12	9	6	-	27	
河 崎		d	1	3	4	-	8	-	-	-	-	-	-	1	3	4	-	-	8	
松ヶ崎		d	-	6	8	3	-	17	-	3	2	-	5	-	6	11	5	-	22	
赤 泊		d	1	-	2	7	-	10	-	2	9	-	11	1	-	4	16	-	21	
(羽茂)		d	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
佐渡計		221	23	16	62	100	-	-	5	11	-	16	100	221	23	16	62	-	78	
		%	3.2	.3	.3	.25	.1	.8	.0	.3	.7	-	.10	2.6	.9	.9	.6	-	.0	
農業課程		20252	156	91	4523	-	-	18	44	-	62	20252	174	135	4585	-	-	-	-	
合 計		3.8	.48	.29	.17	.08	.100	-	.29	.71	-	.34	.43	.29	.23	.07	.100	-	-	
		%	3.8	.2	.8	.4	.0	-	.0	.0	-	3.4	.1	.7	.1	0.7	.0	-	-	

第1表

## 定時制卒業生進路状況

〔商業課程〕

男女別 学校別 進路別	男					女					合 計					備 考
	進学	自営	被傭	無業	不詳	進学	自営	被傭	無業	不詳	進学	自営	被傭	無業	不詳	
新発田	n	5	7	1	13	-	-	-	-	-	5	7	1	13		
商工	n	5	7	1	13	-	-	-	-	-	5	7	1	13		
下越計	%	.38	.53	.77	.100	-	-	-	-	-	.38	.53	.77	.100		
	%	.5	.8	.0	.0	-	-	-	-	-	.5	.8	.0	.0	.0	
新潟商業	n	3	5	44	4	56	-	-	-	-	3	5	44	4	56	
三条実業	n	12	15	-	27	-	-	-	-	-	12	15	-	27		
五泉実業	d	5	11	1	17	-	5	-	5	-	5	16	1	22		
蒲原計	322	70	5	100	5	100	5	3	22	75	5	105				
	%	3.0	.22	.70	.50	.100	.0	.0	.22	.72	.48	.100				
長岡商業	n	9	19	2	30	-	1	-	1	-	9	20	2	31		
柏崎	n	2	3	20	1	26	1	2	3	2	4	22	1	29		
中越計	212	39	3	56	1	3	4	2	13	42	3	60				
	%	3.6	.21	.69	.56	.100	.25	.75	.0	.0	.33	.21	.70	.50	.100	
	%	.4	.6	.0	.0	.0	.0	.0	.0	.0	.6	.0	.0	.0	.0	
新井	n	2	2	14	-	18	-	-	-	-	2	2	14	-	18	
上越計	22	14	-	18	-	-	-	-	2	2	14	-	18			
	%	.11	.11	.77	.100	-	-	-	.11	.11	.77	-	.100			
	%	.1	.1	.8	.0	-	-	-	.1	.1	.8	-	.0			
商業課程	741	130	9	187	1	8	9	7	42	138	9	196				
	%	3.7	.21	.69	.48	.100	.11	.88	.0	.36	.21	.70	.46	.100		
合 計	%	3.7	.21	.69	.48	.100	.11	.88	.0	.36	.21	.70	.46	.100		



第1表

定時制卒業生進路状況

〔工業課程1〕

課程別	学校別	男女別 進路別	男					女					合 計					備考			
			進学	自営	被傭	無業	不詳	計	進学	自営	被傭	無業	不詳	計	進学	自営	被傭		無業	不詳	計
			n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n		%	n	%
工業課程	機械課程	三条実業	n	-	10	24	3	-	37	-	-	-	-	-	-	10	24	3	-	37	
		市立工業	n	-	1	31	-	1	33	-	-	-	-	-	-	1	31	-	1	33	
		蒲原計	n	-	11	55	3	1	70	-	-	-	-	-	-	11	55	3	1	70	
		%	-	15.7	78.6	4.3	1.4	100.0	-	-	-	-	-	-	-	15.7	78.6	4.3	1.4	100.0	
		長岡工業	n	1	5	26	1	-	33	-	-	-	-	-	1	5	26	1	-	33	
	工業化学課程	柏崎工業	n	1	-	11	5	2	19	-	-	-	-	-	1	-	11	5	2	19	
		中越計	n	2	5	37	6	2	52	-	-	-	-	-	2	5	37	6	2	52	
		%	3.9	9.6	71.2	11.5	3.9	100.0	-	-	-	-	-	-	3.9	9.6	71.2	11.5	3.9	100.0	
		私立三和	n	-	-	8	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	8	
		上越計	%	-	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	100.0	
工業課程	機械課程	機械課程	n	2	16	100	9	3	130	-	-	-	-	-	2	16	100	9	3	130	
		合 計	%	1.5	12.3	77.0	6.9	2.3	100.0	-	-	-	-	-	1.5	12.3	77.0	6.9	2.3	100.0	
	工業化学課程	新井	n	-	1	22	-	23	-	-	-	-	-	-	-	1	22	-	23		
		私立三和	n	-	-	17	-	17	-	-	1	-	1	-	-	-	18	-	-	18	
		上越計	%	-	2.5	97.5	-	100.0	-	-	100.0	-	100.0	-	-	2.4	97.6	-	-	100.0	
		工業化学	n	-	1	39	-	40	-	-	1	-	1	-	-	1	40	-	-	41	
		課程合計	%	-	2.5	97.5	-	100.0	-	-	100.0	-	100.0	-	-	2.4	97.6	-	-	100.0	
電氣課程	電氣課程	柏崎工業	n	-	-	5	3	-	8	-	-	-	-	-	-	-	5	3	-	8	長岡工業は29.4設置
		中越計	%	-	-	62.5	37.5	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	62.5	37.5	-	100.0	
		私立三和	n	-	-	9	-	1	10	-	-	-	-	-	-	-	9	-	1	10	
		上越計	%	-	-	90.0	-	10.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	90.0	-	10.0	100.0	
		電氣課程	n	-	-	14	3	1	18	-	-	-	-	-	-	-	14	3	1	18	
	紡織課程	合 計	%	-	-	77.8	17.1	5.1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	77.8	17.1	5.1	100.0	
		五泉実業	n	-	-	4	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	4	
		蒲原計	%	-	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	100.0	
			%	-	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	100.0	
			%	-	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	100.0	



第1表

## 定時制卒業生進路状況

〔工業課程2〕

課程別 工業課程	學校別 分校別	男女別 進路別	男					女					合計					備考		
			進學	自營	被備	無業	不詳	進學	自營	被備	無業	不詳	進學	自營	被備	無業	不詳			
			計					計					計							
紡織課程			-	-	4	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	4	
合計%			-	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	100.0	
工業課程			2	17	157	12	4	192	-	-	1	-	-	1	2	17	158	12	4	193
合計%			1.0	8.9	81.8	6.3	2.1	100.0	-	-	100.0	-	100.0	1.0	8.8	82.0	6.2	2.1	100.0	

第1表

## 定時制卒業生進路状況

〔被服課程1〕

学校別	男女別 進路別	男					女					合 計					備考	
		進学	自営	被備	無業	不詳	進学	自営	被備	無業	不詳	進学	自営	被備	無業	不詳		
		計					計					計						
木崎 (新築田農業)	d	-	-	-	-	-	-	-	5	-	5	-	-	-	5	-	5	
紫雲寺 (中条)	d	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	6	-	-	1	5	-	6
金塚 (安田)	d	-	-	-	-	-	-	4	1	-	-	5	-	4	1	-	-	5
安田 (水原)	d	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	2	-	2
下越計	%	-	-	-	-	-	-	4.2	2.1	12.6	-	18.6	-	4.2	2.1	12.6	-	18.6
豊実 (津川)	d	-	-	-	-	-	-	-	-	9	1	10	-	-	-	9	1	0
西川	d	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3	-	-	-	3	-	3
東川	d	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	4	-	1	-	4	-	4
三川	d	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	3	-	-	-	2	-	3
五泉実業	d	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	5	-	-	1	4	-	5
蒲原計	%	-	-	-	-	-	-	4.0	4.0	88.0	4.0	100.0	-	4.0	4.0	88.0	4.0	100.0
新井	d	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	2	-	2
原通	d	-	-	-	-	-	-	-	2	7	-	9	-	-	2	7	-	9
矢代	d	-	-	-	-	-	-	-	8	3	-	11	-	-	8	3	-	11
上越計	%	-	-	-	-	-	-	10.4	12.5	22.5	-	22.0	-	10.4	12.5	22.5	-	22.0

第1表 定時制卒業生進路状況  
〔被服課程2〕

学校別	男女別 進路別 昼夜別	男					女					合 計					備 考		
		進学	自営	被傭	無業	不詳	進学	自営	被傭	無業	不詳	進学	自営	被傭	無業	不詳			
佐渡農業 河 崎	d	-	-	-	-	-	-	-	6	18	-	24	-	-	6	18	-	24	
	d	-	-	-	-	-	-	-	6	20	-	26	-	-	6	20	-	26	
佐渡計		-	-	-	-	-	-	-	12	38	-	50	-	-	12	38	-	50	
%		-	-	-	-	-	-	-	24	76	-	100	-	-	24	76	-	100	
		-	-	-	-	-	-	-	.0	.0	-	.0	-	-	.0	.0	-	.0	
被服課程		-	-	-	-	-	-	-	5	25	84	115	-	-	5	25	84	115	
合 計	%	-	-	-	-	-	-	-	4.4	21	73	0.8	100	-	4.4	21	73	0.8	100
		-	-	-	-	-	-	-	.7	.0	.0	.0	-	-	.7	.0	.0	.0	

つぎに、各学校の性格を、さらに明瞭にするために、進学、被傭、自営、無業の比率を基準として、すべての学校を4類型に分類することを試みた。

第Ⅰ類型（卒業生中被傭が50%以上の学校）

第Ⅱ類型（ " 自営 " ）

第Ⅲ類型（ " 無業 " ）

第Ⅳ類型（卒業生中、自営、被傭、無業のいずれも50%に充たない学校）

ただし卒業生数（男女別）が9人以下の学校は卒業生数が少ない学校として第Ⅴ類型とした。

この分類表は紙数の都合上掲げることができないが、各学校は、自分の学校がどの類型に属するかを第1表によって確認していただきたいと思う。これは、その学校が、被傭者となる者を教育しているのか、自営者となる者を教育しているのか、それともその他となる者を教育しているのかで、教育の目的、内容、方法は、いろいろ違って来るからである。

さて、定時制課程は全日制（通常の課程を以下通称にしたがって全日制とよぶ）に比べて、進学が少いことは常識的に言えることであるが、実際にどれだけ違うのだろうか。その他の点はどうであろうか。ごく大まかに全日制の進路状況と比較してみよう。

第2図は卒業生の進路状況について全日制と定時制を比較して示したものである。ここに用いた全日制の生徒数は3年間の合計であるし、定時制の分は1年間だけであるから、厳密な比較とは言えないかも知れないが、大体の傾向を

うかがうにはじゅうぶんであると思う。

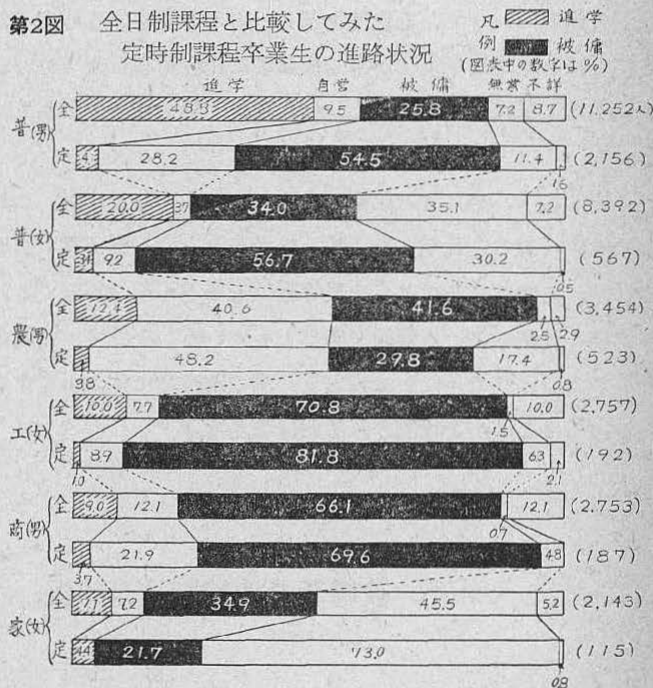
この図からつぎのことがらを指摘することができる。

① 定時制は全日制に比べて進学が極めて少い。これは普通課程はもちろんのこと、他の課程もおしなべて少く、せいぜい全体の4%ぐらいにとどまっている。このことは定時制から大学へ進学することが極めて困難であることを物語っている。

② それとは反対に、被傭は極めて多い。しかし、これからの人々は卒業してから就職したのではなくて、在学中にすでに職業をもち、余暇を定時制に学んだという者が大部分なのである。この点は、あとで詳細に分析するが、とにかく定時制教育の最大の特色であろう。ただし、農業課程（男）は被傭が少いかわりに自営が多く、家庭技芸課程は無業が多くなっている。

③ 一般に自営が多い。とくに、普通課程（男）では28.2%という数になっている。

この場合、従事している産業は農業が多いのであるが、農家の長男が、普通課程の教育をう



けていることが適切であるかどうか問題として残るであろう。

④ 全日制にくらべて不詳が極めて少い。これは、全日制は数が多く、正確に卒業生の卒業後の動態をつかみにくいという難点をもっていることにもよるのであるが、それにしても卒業後何年もたたないのに卒業生の10%ぐらいはどうなったのか見当がつかないという実情は改められなければならないのではあるまいか。これにくらべる

と定時制は、卒業生の動態をよく把握していると言えるのであつて、定時制教育の誇つてよい特色の一つであろう。

#### 4. 被傭者の産業別分布状況

つぎに、前項で被傭となっている者（以下被傭者とよぶ）が、どんな産業にどんな比率で入っているかをみよう。第2表は課程別、男女別に、定時制卒業生が各産業に入っている状況を示したものである。この表をみて、端的に言えることは、定時制卒業生が第2次産業に比較的多数入っていることである。これは単に工業課程だけでなく、他の課程すべてについてあてはまることである。

このことは、全日制と比較してみたらどうであろうか。これを明らかにするために定時制と全日制とを比較して示したものが第3表である。これによるとやはり、定時制卒業生は、工業課程はもちろん他の課程でも、第2次産業に比較的多く就職している傾向が歴然としている。そして、職務内容を調査していないので断言はできないけれども、第2次産業で体力を要する仕事に従事しているのではないかと推測されるわけである。

#### 5. 被傭者の地域別分布状況

さらに、被傭となった者はどんな地域に入っているであろうか。

第4表は卒業生が、課程ごと男女ごとにみて、どんな比率で県内や県外に出ていっているかを示したものである。

これによると、男子では、普通、商業、工業の3課程ではほぼ80%以上が県内にとどまっていることになる。



第4表 定時制卒業生中被傭者の  
県内県外別分布状況

課程	男女 県内 県外	男				女			
		県内	県外	不詳	計	県内	県外	不詳	計
普通		940	229	11	1,180	286	36	-	322
	(%)	79.7	19.4	0.9	100.0	88.8	11.2	-	100.0
農業		88	68	-	156	9	9	-	18
	(%)	56.4	43.6	-	100.0	50.0	50.0	-	100.0
商業		119	11	-	130	8	-	-	8
	(%)	91.5	8.5	-	100.0	100.0	-	-	100.0
工業		146	11	-	157	1	-	-	1
	(%)	93.0	7.0	-	100.0	100.0	-	-	100.0
家庭		-	-	-	-	13	12	-	25
	(%)	-	-	-	-	52.0	48.0	-	100.0

ただし、農業課程だけが例外で、県外に 43.6%も出ている。女子では、やはり、農業と家庭の2課程が県外へ多く出ているのである。

このような傾向は、全日制とくらべてどう違うのだろうか。

第5表は定時制卒業生の県内県外別被傭状況を全日制と比較して示したものである。

ここでみられるように、

全日制的場合は、とくに課程によって傾向が違うということはない。したがっ

第5表 全日制と比較してみた定時制卒業生中  
被傭者の県内県外別分布状況

課程	男女 県内 県外	男					女				
		県内	県外	不詳	計	総数	県内	県外	不詳	計	総数
普通	全	69.6	25.2	5.2	100.0	2,907	85.3	10.0	4.7	100.0	2,854
	定	79.7	19.4	0.9	100.0	1,180	88.8	11.2	-	100.0	322
農業	全	70.4	25.2	4.4	100.0	1,434	100.0	-	-	100.0	13
	定	56.4	43.6	-	100.0	156	50.0	50.0	-	100.0	18
商業	全	64.2	34.2	1.6	100.0	1,823	89.9	8.8	1.3	100.0	80
	定	91.5	8.5	-	100.0	130	100.0	-	-	100.0	8
工業	全	62.6	35.2	2.2	100.0	1,952	-	-	-	-	-
	定	93.0	7.0	-	100.0	157	100.0	-	-	100.0	1
家庭	全	-	-	-	-	-	86.4	11.5	2.1	100.0	676
	定	-	-	-	-	-	52.0	48.0	-	100.0	25

て定時制の農業課程（男女とも）および家庭課程が県外へ多く出ていることは、定時制独得の傾向であるといえることができる。

農業、家庭の2課程を除いて、他の課程は、全日制にくらべて、県内に多く

第6表

定時制普通課程卒業生中被傭者の  
県内地区別県外都道府県別分布状況

出身地区	被傭先	男																		
		県内							県外											
		下越	蒲原	中越	魚沼	上越	佐渡	不詳	計	東京	大阪	愛知	神奈川	群馬	埼玉	北海道	その他の	不詳	計	
下越	(%)	51 83.6	10 16.4	-	-	-	-	-	61 100.0	45 57.0	2 2.5	4 5.1	-	1 1.3	-	5 6.3	22 27.8	-	79 100.0	
蒲原	(%)	5 0.9	538 98.5	-	1 0.2	1 0.2	-	1 0.2	546 100.0	24 55.7	2 4.7	1 2.3	3 7.0	-	2 4.7	5 11.6	6 14.0	-	43 100.0	
中越	(%)	1 0.8	11 9.1	108 89.3	1 0.8	-	-	-	121 100.0	12 70.6	-	-	1 5.9	-	-	-	4 23.5	-	17 100.0	
魚沼	(%)	1 1.2	2 2.3	51 59.3	32 37.2	-	-	-	86 100.0	34 75.6	1 2.2	-	-	-	-	5 11.1	5 11.1	-	45 100.0	
上越	(%)	2 1.7	1 0.8	-	-	116 97.5	-	-	119 100.0	11 35.6	1 3.2	9 29.0	-	-	1 3.2	-	9 29.0	-	31 100.0	
佐渡	(%)	-	-	-	-	-	7 100.0	-	7 100.0	8 57.1	-	-	2 14.3	-	-	2 14.3	2 14.3	-	14 100.0	
計	(%)	60 6.4	562 59.8	159 16.9	34 3.6	117 12.5	7 0.7	1 0.1	940 100.0	134 58.6	6 2.6	14 6.1	6 2.6	1 0.4	3 1.3	17 7.4	48 21.0	-	229 100.0	
出身地区	被傭先	女																		
		県内							県外											
		下越	蒲原	中越	魚沼	上越	佐渡	不詳	計	東京	大阪	愛知	神奈川	群馬	埼玉	北海道	その他の	不詳	計	
下越	(%)	26 83.8	2 6.5	-	2 6.5	1 3.2	-	-	31 100.0	4 57.1	-	2 28.6	-	-	-	-	1 14.3	-	7 100.0	
蒲原	(%)	-	130 99.2	1 0.8	-	-	-	-	131 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
中越	(%)	-	4 10.3	34 87.1	1 2.6	-	-	-	39 100.0	4 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	4 100.0	

魚沼 (%)	-	-	20	17	-	-	-	37	5	1	-	1	-	-	-	1	-	8
	-	-	54.1	45.9	-	-	-	100.0	6.25	1.25	-	1.25	-	-	-	1.25	-	100.0
上越 (%)	-	1	-	-	39	-	-	40	9	1	1	2	-	1	-	1	-	15
	-	2.5	-	-	97.5	-	-	100.0	59.9	6.7	6.7	13.3	-	6.7	-	6.7	-	100.0
佐渡 (%)	-	-	-	-	-	8	-	8	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	-	-	-	-	-	100.0	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
計 (%)	26	137	55	20	40	8	-	286	24	2	3	3	-	1	-	3	-	36
	9.1	47.9	19.2	7.0	14.0	2.8	-	100.0	66.7	5.6	8.3	8.3	-	2.8	-	8.3	-	100.0

とどまり、県外へ出ていることは少い。これは卒業した後、在学中の職業を離れる者が少いことを示すものであろう。したがって、この裏を返せば、さきほどの農業、家庭の2課程は在学中に職業をもっている者が少く、卒業後職を求めて家郷を離れて行く者が多いと言えるのである。

つぎに県内ではどんな地域に、県外ではどの都道府県に入っているかをみよう。紙数がないので普通課程だけを例にとってみる。

第6表は、定時制普通課程の卒業生が県内6地区別(注2)に、および県外都道府県別にどんな比率で入っているかを示したものである。まず県内の分布状況の特色をみると、ほとんど大部分は自分の出身地区に就職していることがあげられる。このことから、職業を生家を離れて他郷に求めることは非常に困難であることが推測できるのである。ただし、魚沼地区だけは例外である。この地区出身卒業生は自分の出身地区よりも隣接の中越地区に多く入っている。これは、魚沼地区が労働市場に恵まれないため、この地区出身者は、多少の無理をおして家郷を離れて他の地区に進出せざるを得ないものと考えられる。

(注2) 県内を6地区に区分することは「新潟県総合開発計画書(昭和26年中間報告県企画課編)」に行われているものであつて、その内訳はつぎの通りである。

下越(岩船郡、北蒲原郡、新発田市)

蒲原(東蒲原郡、中蒲原郡、西蒲原郡、南蒲原郡、新潟市、三条市、新津市)

中越(刈羽郡、三島郡、古志郡、長岡市、柏崎市)

魚沼(北魚沼郡、中魚沼郡、南魚沼郡)

上越(東頸城郡、中頸城郡、西頸城郡、高田市)

佐渡(佐渡郡)



## 6. 被傭者の勤務状況

定時制卒業被傭者の勤務状況はどうなっているだろうか。

まず定時制を卒業してから職業が変わったかどうかを明らかにしてみよう。定時制は全日制と違って、生徒は在学中に就業している者が大部分である。これらの生徒が、定時制を卒業したことによって職業を変えたか変えないかということは、生徒が定時制の教育を自分の生活にどのように役立てたかを判定する資料となり、ひいては定時制教育の青少年教育における役割が明らかになることと考えられる。

第7表は、課程ごと、男女ごとに、卒業後どの程度職業が変わっているかを示したものである。これによると、男女とも、変らないと答えている者が圧倒的に多い。ただし、農業（男女とも）と家庭の2課程は、逆に変わったと答えている者が大部分を占めている。これは、普通、商業、工業の各課程は在学中に定

第7表 定時制卒業後職業が変わったか

職を持っている

課程	男女	男				女			
		変らない	変った	無答	計	変らない	変った	無答	計
普通		747	351	82	1,180	207	87	28	322
(%)		63.4	29.7	6.9	100.0	64.3	27.0	8.7	100.0
農業		7	133	16	156	-	12	6	18
(%)		4.5	85.2	10.3	100.0	-	66.7	33.3	100.0
商業		107	21	2	130	6	2	-	8
(%)		82.3	16.2	1.5	100.0	75.0	25.0	-	100.0
工業		131	20	6	157	-	1	-	1
(%)		83.5	12.7	3.8	100.0	-	100.0	-	100.0
家庭		-	-	-	-	-	24	1	25
(%)		-	-	-	-	-	96.0	4.0	100.0

者を多く収容しているが、農業家庭の各課程は、在学中に家事を手伝い、卒業を機会に他の産業に就職する者が多いことを示すものである。

う。つぎに卒業生

の通勤状況を調べてみよう。これは自宅通勤ならば出身地の近くに、下宿住込ならば出身地を離れて遠く（もちろん、一義的には言いきれないが）就職していることを意味するのであって、やはり定時制の就職のしかたをみる上に参考



となるものである。

第8表 定時制卒業生通勤状況

第8表は定時

男女 課程	男				女			
	自宅 通勤	下宿 住込	無答	計	自宅 通勤	下宿 住込	無答	計
普通 (%)	815 69.1	352 29.8	13 1.1	1,180 100.0	246 76.4	75 23.3	1 0.3	322 100.0
農業 (%)	70 44.9	86 55.1	-	156 100.0	8 44.4	10 55.6	-	18 100.0
商業 (%)	107 82.3	22 16.9	1 0.8	130 100.0	8 100.0	-	-	8 100.0
工業 (%)	136 86.6	21 13.4	-	157 100.0	-	1 100.0	-	1 100.0
家庭 (%)	-	-	-	-	8 32.0	15 60.0	2 8.0	25 100.0

制卒業生の通勤  
状況を自宅通勤  
と下宿住込とに  
わけ、数と比率  
を示したもので  
ある。  
これによると  
普通、商業、工  
業の各課程は圧  
倒的に自宅通勤  
が多い。しかし

農業課程（男女とも）および家庭課程は逆に下宿住込が多いのである。

したがって、この両課程は「職業が変わったかどうか」の項でも述べたように、定時制としては特異な在り方を示しているものと言うことができる。

## 7. 自営者の産業別分布状況

自営者はどんな産業に従事しているか。

第9表は、自営者がどんな産業に従事しているかを示したものである。（第9表参照）

これによると、普通課程（男女とも）農業課程（男）は、農業が圧倒的に多く、商業課程工業課程は卸小売業や製造業が比較的多いことがわかる。ここで問題となるのは、普通課程卒業の農業自営者が予想外に多いことであろう。

なお、全日制については自営者の産業の内訳を調査しなかったののでここで比較することはできない。

## 6. 被傭者の勤務状況

定時制卒業被傭者の勤務状況はどうなっているだろうか。

まず定時制を卒業してから職業が変わったかどうかを明らかにしてみよう。定時制は全日制と違って、生徒は在学中に就業している者が大部分である。これらの生徒が、定時制を卒業したことによって職業を変えたか変えないかということは、生徒が定時制の教育を自分の生活にどのように役立てたかを判定する資料となり、ひいては定時制教育の青少年教育における役割が明らかになることと考えられる。

第7表は、課程ごと、男女ごとに、卒業後どの程度職業が変わっているかを示したものである。これによると、男女とも、変らないと答えている者が圧倒的に多い。ただし、農業（男女とも）と家庭の2課程は、逆に変わったと答えている者が大部分を占めている。これは、普通、商業、工業の各課程は在学中に定

第7表 定時制卒業後職業が変わったか

職を持っている

男女 課程	男				女			
	変らない	変った	無答	計	変らない	変った	無答	計
普通 (%)	747 63.4	351 29.7	82 6.9	1,180 100.0	207 64.3	87 27.0	28 8.7	322 100.0
農業 (%)	7 4.5	133 85.2	16 10.3	156 100.0	- -	12 66.7	6 33.3	18 100.0
商業 (%)	107 82.3	21 16.2	2 1.5	130 100.0	6 75.0	2 25.0	- -	8 100.0
工業 (%)	131 83.5	20 12.7	6 3.8	157 100.0	- -	1 100.0	- -	1 100.0
家庭 (%)	- -	- -	- -	- -	- -	24 96.0	1 4.0	25 100.0

者を多く收容しているが、農業家庭の各課程は、在学中に家事を手伝い、卒業を機会に他の産業に就職する者が多いことを示すものであろう。

つぎに卒業生

の通勤状況を調べてみよう。これは自宅通勤ならば出身地の近くに、下宿住込ならば出身地を離れて遠く（もちろん、一義的には言いきれないが）就職していることを意味するのであって、やはり定時制の就職のしかたをみる上に参考

となるものである。

第8表 定時制卒業生通勤状況

第8表は定時

男女 課程	男				女				制卒業生の通勤 状況を自宅通勤 と下宿住込とに わけ、数と比率 を示したもので ある。 これによると 普通、商業、工 業の各課程は圧 倒的に自宅通勤 が多い。しかし
	自宅 通勤	下宿 住込	無答	計	自宅 通勤	下宿 住込	無答	計	
普通 (%)	815 69.1	352 29.8	13 1.1	1,180 100.0	246 76.4	75 23.3	1 0.3	322 100.0	
農業 (%)	70 44.9	86 55.1	-	156 100.0	8 44.4	10 55.6	-	18 100.0	
商業 (%)	107 82.3	22 16.9	1 0.8	130 100.0	8 100.0	-	-	8 100.0	
工業 (%)	136 86.6	21 13.4	-	157 100.0	-	1 100.0	-	1 100.0	
家庭 (%)	-	-	-	-	8 32.0	15 60.0	2 8.0	25 100.0	

農業課程（男女とも）および家庭課程は逆に下宿住込が多いのである。

したがって、この両課程は「職業が変わったかどうか」の項でも述べたように、定時制としては特異な在り方を示しているものと言うことができる。

## 7. 自営者の産業別分布状況

自営者はどんな産業に従事しているか。

第9表は、自営者がどんな産業に従事しているかを示したものである。（第9表参照）

これによると、普通課程（男女とも）農業課程（男）は、農業が圧倒的に多く、商業課程工業課程は卸小売業や製造業が比較的多いことがわかる。ここで問題となるのは、普通課程卒業の農業自営者が予想外に多いことであろう。

なお、全日制については自営者の産業の内訳を調査しなかったのでここで比較することはできない。

第9表

定時制卒業生中自営者

産業 課程	A	B	C	D				E	F														
	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
普通 (男)	429 (%) 70.3	2 (%) 0.3	1 (%) 0.2	-	-	-	-	8 (%) 1.3	14 (%) 2.3	6 (%) 1.0	4 (%) 0.7	26 (%) 4.3	3 (%) 0.5	-	1 (%) 0.2	1 (%) 0.2	2 (%) 0.3	10 (%) 1.6	2 (%) 0.3	2 (%) 0.3	2 (%) 0.3	-	13 (%) 2.1
普通 (女)	28 (%) 54.0	-	-	-	-	-	-	-	2 (%) 3.8	4 (%) 7.7	1 (%) 1.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 (%) 1.9
農業 (男)	241 (%) 95.6	1 (%) 0.4	1 (%) 0.4	-	-	-	-	-	-	-	1 (%) 0.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
商業 (男)	2 (%) 4.9	-	-	-	-	-	-	-	3 (%) 7.3	-	-	3 (%) 7.3	-	-	-	-	-	-	1 (%) 2.4	-	-	-	1 (%) 2.4
工業 (男)	4 (%) 23.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 (%) 5.9	-	-	-	-	-	5 (%) 29.4	4 (%) 23.5	-	-	-	-

(注) 農、商、工、家の女子は自営者となつている数が少いので掲げない。

## 8. 無業者の生活状況

被傭や自営のいずれでもないいわゆる無業者はどんな生活を送っているのか。この就職しない原因ないし就職できない原因は一体どこにあるのかはそれについて深く調査しなかったのだからここに言うことはできない。ここで

第10表

定時制課程卒業生のうち無業者の生活状況

生活状況 課程	受験 準備	家事 手伝	教養 在学	療養	その他	計
普通(男)	51 (%) 20.7	155 (%) 63.1	22 (%) 8.9	12 (%) 4.9	6 (%) 2.4	246 (%) 100.0
普通(女)	6 (%) 3.5	136 (%) 79.5	15 (%) 8.8	7 (%) 4.1	7 (%) 4.1	171 (%) 100.0
農業(男)	1 (%) 1.1	83 (%) 91.2	4 (%) 4.4	1 (%) 1.1	2 (%) 2.2	91 (%) 100.0
農業(女)	2 (%) 4.5	9 (%) 88.7	1 (%) 2.3	-	2 (%) 4.5	44 (%) 100.0
商業(男)	3 (%) 33.3	5 (%) 55.6	1 (%) 11.1	-	-	9 (%) 100.0
工業(男)	1 (%) 8.3	8 (%) 66.7	2 (%) 16.7	1 (%) 8.3	-	12 (%) 100.0
家庭(女)	1 (%) 1.2	61 (%) 72.7	1 (%) 1.2	1 (%) 1.2	20 (%) 23.7	84 (%) 100.0

は、生活の内容を受験準備、

家事手伝、教養施設在学、

病気療養中、その他の五つ

にわけてそれぞれの数と比

率を求めてみたただけであ

る。その結果を示したのが

第10表である。

これによると、家事手伝

いが圧倒的に多い。このこ

とから、女子の場合は、家

事手伝いをしながら結婚の



の産業別分布状況

G		H		I		J					K					L	M	不詳	合計
24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41		
4	40	-	1	-	1	-	3	-	-	-	6	1	9	1	2	1	4	9	608
0.7	6.6	-	0.2	-	0.2	-	0.5	-	-	-	1.0	0.2	1.5	0.2	0.3	0.2	0.7	1.5	100.0
-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	1	1	-	-	1	52
-	15.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.9	-	7.7	1.9	1.9	-	-	1.9	100.0
-	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	3	252
-	0.4	-	-	0.4	0.4	-	-	-	-	-	-	-	-	0.4	-	0.4	-	1.2	100.0
1	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	20	41
2.4	22.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.4	-	-	-	-	48.9	100.0
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	17
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11.8	5.9	100.0

機会を待っているものが多いと考えられる。しかし、男子の場合は就職の機会に恵まれず、不本意ながら現状にある者が多いと言うことができよう。これらの人々の将来について、関係者はしんげんに考えなければならないものと思うわけである。

## 9. 卒業生の進路状況からみた学校の性格

以上、卒業生の進路状況を分析することによって定時制課程の特色をみてきたのであるが、つぎに、具体的に個々の学校についてその特色と問題点を指摘してみよう。個々の学校はとうていその全部にわたることができないので、代表的なものを14校抽出することにする。(以下抽出校とよぶ)これらの学校は卒業生数が10名以上(男女別)のものについて、被傭者が50%以上のものを第Ⅰ類型、自営者が50%以上のものを第Ⅱ類型、無業者が50%以上のものを第Ⅲ類型、および被傭自営無業のいずれも50%に満たないものを第

Ⅳ類型とし、各類型ごとに課程別、地域別、男女別を勘案して有意抽出をしたのである。

抽出校はつぎの通りであって、その進路状況について、進学、自営、被傭、無業の百分率をとり図表にして示したのが第3図である。

- |      |   |                    |
|------|---|--------------------|
| 第Ⅰ類型 | { | ① 蒲原IK校、普通、男、夜間    |
|      |   | ② 蒲原S校、普通、女、夜間     |
|      |   | ③ 上越Y校M分校、農業、男、昼間  |
|      |   | ④ 蒲原NS校、商業、男、夜間    |
|      |   | ⑤ 中越NK校、工業機械、男、夜間  |
| 第Ⅱ類型 | { | ⑥ 下越M校、普通男、昼間      |
|      |   | ⑦ 中越NN校、農業、男、昼間    |
| 第Ⅲ類型 | { | ⑧ 下越S校K分校、普通、男、昼間  |
|      |   | ⑨ 下越M校S分校、普通、女、昼間  |
|      |   | ⑩ 佐渡II校A分校、農業、男、昼間 |
|      |   | ⑪ 佐渡SN校、家庭、女、昼間    |
| 第Ⅳ類型 | { | ⑫ 上越M校、普通、男、昼間     |
|      |   | ⑬ 上越M校、普通、女、昼間     |
|      |   | ⑭ 蒲原KN校、農業、男、昼間    |

つぎに、各学校について、卒業生の進路状況からみた各学校の性格と問題点について述べよう。

① 蒲原IK校、普通、男、夜間

25名卒業のうち24名まで被傭となっている。産業別にみると、建設業2、製造業12、卸小売業6、サービス業4となっている。

さらに卒業後職業を移動しない者が22、自宅通勤が20である。

以上のことから、この学校の卒業生は、大部分が在学中から定職をもち、しかもその職業は大部分が第2次産業であり、自宅通勤をしているのであることがわかる。この点からみて、この学校の目的は、県都の下町の工場街で、工場勤めの勤労青年の向学心を充すことにあると言える。

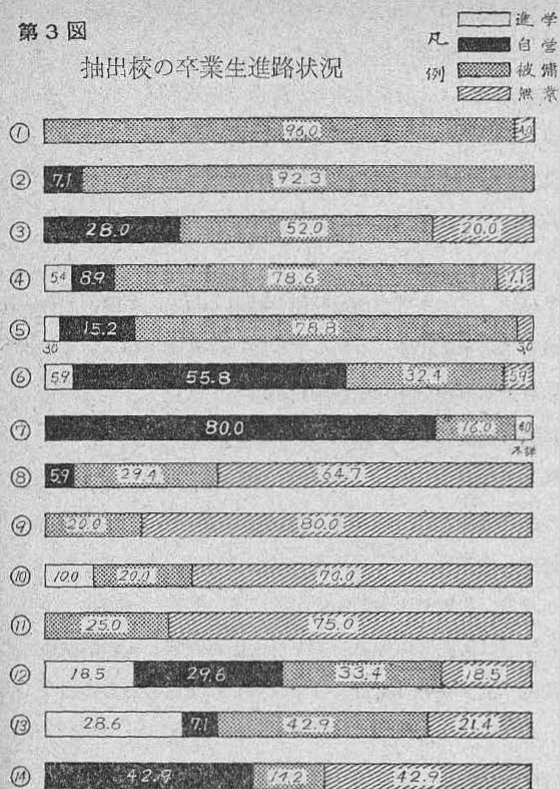
② 蒲原S校、普通、女、夜間

卒業生13名中12名が被傭となっている。この12名がどんな産業に入っているかをみるとつぎのようになっている。

建設業 1, 製造業 3, 卸小売業 1, 運通公益業 1, サービス業 3, 公務 3

第3図

抽出校の卒業生進路状況



卒業後、在学中の職業を移動した者は全くない。また全員自宅通勤である。このような点から、この学校は、在学中すでに各産業に従事していて教養向上のために入学、卒業後も同じ職場に止まっている女子を教育の対象にしていることがわかる。

③ 上越Y校M分校、農業男、昼間

卒業生25名中13名が被傭となっている。

この13名の就職した産業は、製造業4、卸小売業2、金融保険業2、不動産業1、運通公益業1、サービス業2、公務1

となっていて、主として第3次産業に入っていることがわかる。

そして、全員が卒業後職業を移動している。

なお、自宅通勤者は6、下宿住込者は7となっている。

こうした点から、この学校に農家の子弟を収容し、卒業後それらの大部分は農業以外の産業に職を求めて生家を離れていく傾向にあるという特色をもっていることがわかる。したがって、これらの生徒には農業課程の教育よりは、むしろ普通課程、さらには商業、工業の課程の教育が適切ではないかということが考えられる。地域が農山村だからとか本校が農業課程の学校だからとかいう理由で単純に課程の種類を決定してしまうことが、地域の青少年にとって親切であるかどうか考慮すべき問題であると思う。

④ 蒲原NS校, 商業, 男, 夜間

卒業生56名中44名が被傭となっている。

この44名の産業別をみると、つぎのようになっている。

建設業4, 製造業7, 卸小売業17, 金融保険業7, 運通公益業4, サービス業1,  
公務3, 分類不能1

このように、商業課程が目的としている商業、金融関係が大部分である。

また、職業移動はしない方が42名で大部分、自宅通勤者は37名で大部分を占めている。

このような点から、この学校は、やはり都市の定時制の特色として、卒業前から現在の職についていて、卒業後も職業を変えず、しかもその職業は課程のねらいと一致するという生徒を収容している学校であることがわかる。

⑤ 中越NK校, 工業機械, 男, 夜間

卒業生33名中、被傭者は26名となっている。

この26名の産業別はつぎの通りである。

建設業3, 製造業20, 運通公益業2, サービス業1

卒業後職業の変らない者が全員、自宅通勤者25名。

以上の点から考えて、この学校は製造等に従事している生徒を収容して、機械課程の教育を施し、卒業後再び現場へ返すという目的のはっきりした学校であると言えることができる。

⑥ 下越M校, 普通, 男, 昼間

この学校は、いままであげた学校と違って自営者となる者が多い学校である。自営者となる者は卒業生34名中19名もある。自家の産業別をみると、

農業15, 卸小売業3, 運通公益業1となっている。

つまり、この学校は卒業後農業に従事し、将来も続けることが予定されている者を相当数収容していることがわかる。このような学校に普通課程が適切であるかどうか問題であろう。

⑦ 中越NN校, 農業, 男, 昼間

この学校も卒業生は自営者となる者が多く、25名中20名が自営者となっている。その産業別は全部農業である。

したがってこの学校は自営農業者の養成に直進できる学校でできるということができる。



⑧ 下越S校K分校、普通、男、昼間

この学校は卒業生17名中11名が無業である。無業の内容はすべて家事手伝いである。これらの卒業生は農家の二三男であろうと推測されるが、将来どうなるのであろうか。また、課程のあり方はこれでよいのだろうか。問題となる処であろう。

⑨ 下越M校S分校、普通、女、昼間

卒業生10名中8名が無業で家事手伝いをしている。

ここでも、女子で家事手伝いをしている者に普通課程の教育が適切であったかどうか問題であろう。

⑩ 佐渡H校A分校、農業、男、昼間

卒業生10名中7名が無業で、大部分が家事手伝いをしている。

この人たちも将来は農業以外の産業に出て行かなければならない運命にあるのだろう。とすれば、農業課程の教育が果して適切であったかどうか問題となるであろう。

⑪ 佐渡SN校、家庭、女、昼間

卒業生24名中18名が無業である。その内容は家事手伝いである。したがって家庭技芸課程の教育が適切であつたと言うことができよう。

⑫ 上越M校、普通、男、昼間

進学、自営、被傭、無業いずれも過半数とはならない。つまり、多くの目的をもつた生徒を収容している学校であることがわかる。こういう学校は性格がはっきりせず経営はまことに困難であろうと思われる。

⑬ 上越M校、普通、女、昼間

⑫と全く同じことが言える。

⑭ 蒲原KN校、農業、男、昼間

これも多くの目的をもつた生徒を収容している。そこに農業課程の教育が行われているところに問題があろう。

## 10. 結 び

以上、昭和30年3月に本県の公私立高等学校定時制課程を卒業した者について、卒業後の進路状況を調査した結果の概要について述べてきた。

この調査に調査年度が1年限りであるし、また学校依託の形式をとったので、じゅうぶんな資料とは言いきれないものがあるかも知れない。しかし、大まかな傾向を知るためにはこの程度で満足できると考えられるのであえて公表する次第である。

なお、この調査を行ってみてさいごに強調したいことはつぎのことがらである。

全日制もそうであるが定時制でも、各課程や各学校（中心校、分校ごと）には、卒業生の進路状況をみただけでも、本稿で分析したようにそれぞれ特色もっている。このことは、単に定時制だからとか、普通課程だからとかいう抽象的な観点からだけで教育を行ってはいならない、課程ごとに、学校ごとに特色のある教育のしかたが工夫されなければならないことを教えてくれる。端的に言うならば、生徒の生活事情や将来の方向を考慮せずに、ただ全日制と同じレベルまでとか、中心校に負けないようにとかの意識だけで、学校経営や学習指導を行うことは、地域社会の期待や学んでいる生徒の意欲にじゅうぶんに応えるゆえんではないということである。

したがって、教育関係者がまずなすべきことは、卒業生の進路状況などを克明に分析することによって、各学校や課程の特色をはっきりつかみ、その地域や生徒の必要に合致した教育を行っていくにはどうしたらよいか工夫をこらすことであろうと思う。

さらに、定時制だけを単独に切り離して考えるのではなく、その地域の青少年全体の教育をいかにすべきかという見地から、全日制高校、青年学級、4Hクラブ、農事研究会などと関連させて、総合的にそのありかたを考えていくことが大切となるであろう。

いまや、高等学校教育とくに定時制高校の教育は、地方財政のひっばくのしわ寄せをうけ、学校廃止や統合の傾向が全国的にみられるのである。この制度発足以来 10年を出でずして、生死の関頭に立たされていると言っても過言ではないだろう。このさい、教育関係者は行政の無理解や不見識を嘆く前に、自ら謙虚な気持で、現在の定時制教育のあり方を反省する必要はないのだろうか。機会均等の原理はもちろん尊い。しかし生活環境の異なる勤労青少年に、全日制と同じ教育を与えていこうとすること自体に無理があり、そこにこの教育が不振となる要因がひそんでいるのではなからうか。定時制には定時制らしい教育が、勤労青少年には勤労青少年らしい教育の形式や内容が考え出されなければならないことを特にここで強調したい。特に本県では全日課程の不振を定時制課程が補っている実情にある。(注3) したがって、定時制教育が現状のままおかれる限り、分校の統廃合という事態に迫られることが予想され、それこそ辺地の勤労青少年は高校教育に対する希望の灯を奪いさられることにもなりかねない。これは本県高等学校教育の大後退を意味するものである。われわれは、本県高等学校教育をまもるためにこそ、しんげんに定時制教育の正しいあり方を考慮すべき段階にきていると言ってもよからう。

本稿が紀要第10集第2部とあわせて、本県高等学校教育の振興を考えていくためのよすがともなれば、まことに幸いである。

さいごに、この調査を実施するにあたり、誠意をもって御協力下さった全県下の公私立高等学校に対し深甚の謝意を表する。

---

(注3) 新潟県では、全日課程の不振を定時制課程で補っているという実情はつぎの資料によって知ることができる。すなわち、昭和29年度「産業教育調査報告書」文部省調査局統計課発行によると全国の高校進学率は

全日制	43.4%	定時制	6.9%	計	50.3%
全日制	30.3%	定時制	10.4%	計	40.7%

となっているが新潟県のそれは